令和４年度
全国学力・学習状況調査結果
分析報告書

阪　南　市

◇　阪南市のホームページにも掲載します。

◇　内容等についてのお問い合わせ先

阪南市教育委員会事務局　生涯学習部　学校教育課

072-471-5678（内線 2446）

令和４年度全国学力･学習状況調査結果分析報告書

［　目　次　］

1　全国学力･学習状況調査における阪南市の結果分析

１．　調査の概要　・・・　２

２．　学力調査結果の概要について　・・・　３

３．　児童・生徒質問紙調査結果の概要について　・・・　１８

2　資 料 編

１．　調査結果概況　・・・　２８

２．　問題別調査結果　・・・　３２

３．　児童・生徒質問紙調査の結果

小学校調査　・・・　３８

中学校調査　・・・　６３

1　全国学力･学習状況調査における阪南市の結果分析

１．　調査の概要

（1）　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）　調査の対象

市内の公立小学校第６学年児童、中学校第３学年生徒

（3）　調査事項

①　教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
国語、算数・数学、理科はそれぞれ次の２点を一体的に出題

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

②　生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する調査

（4）　実施日

令和４年４月１９日（火）

２．　学力調査結果の概要について

（1）　調査結果の取扱い

①　本調査は、対象となる学年や実施教科、出題数が限られている。したがって結果はあくまでも学力の特定の一部分であり、学校教育活動の一側面を示すものであって、すべてを表すものではない。

②　本調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握し、教科指導や学習の改善に役立てることを目的として実施したもので、競争を目的とした調査ではない。

③　阪南市の受験者数は、小学校 409 名、中学校 402 名で、この後の概要等において示されている割合(%)を人数にすると、概ね次の表のようになる。

	割合(%)	阪南市の児童・生徒数
例	1%	4 名
	3%	12 名
	5%	20 名

④　「無解答率」については、解答欄に何も書かなかった児童・生徒の割合であり、この数字が小さいほど、多くの児童・生徒が解答欄に何らかの解答を記入していることを表す。

（例）無解答率が全国平均を下回っている場合

→　解答を記入した児童・生徒数が、全国平均より多かった。

無解答率が全国平均を上回っている場合

→　解答を記入した児童・生徒数が、全国平均より少なかった。

（2）　調査結果の概況

問題別調査結果表の用語について
「学習指導要領の内容」は下の通りである。
出題された問題が学習指導要領のどの領域に基づいているかを示している。

【小学校　国語】	【小学校　算数】	【小学校　理科】
○知識及び技能 ・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・情報の扱い方に関する事項 ・我が国の言語文化に関する事項 ○思考力、判断力、表現力等 Ａ話すこと・聞くこと Ｂ書くこと　Ｃ読むこと	Ａ数と計算 Ｂ図形 Ｃ測定 Ｃ変化と関係 Ｄデータの活用	○Ａ区分 ・「エネルギー」を柱とする領域 ・「粒子」を柱とする領域 ○Ｂ区分 ・「生命」を柱とする領域 ・「地球」を柱とする領域

【中学校　国語】	【中学校　数学】	【中学校　理科】
○知識及び技能 ・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・情報の扱い方に関する事項 ・我が国の言語文化に関する事項 ○思考力、判断力、表現力等 Ａ話すこと・聞くこと Ｂ書くこと　Ｃ読むこと	Ａ数と式 Ｂ図形 Ｃ関数 Ｄデータの活用	・「エネルギー」を柱とする領域 ・「粒子」を柱とする領域 ・「生命」を柱とする領域 ・「地球」を柱とする領域

「評価の観点」は下の通りである。
出題された問題が教科に関する学力を評価する際、どの観点に関するものかを示している。

【小学校・中学校　国語、算数・数学、理科】
○知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に学習に取り組む態度

「問題形式」は、解答の形式により次の３タイプに分類できる。

・選択式　　・短答式　　・記述式

（３）　調査事項別学力調査結果の概要

【小学校　国語】

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
全体			14	58	63	64.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	60.0	67.4	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力，判断力，表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	74.2	76.7	77.8
		B　書くこと	2	53.2	57.3	60.7
		C　読むこと	3	41.5	45.2	47.2
評価の観点		知識・技能	6	60.0	67.4	68.3
		思考・判断・表現	8	56.7	60.0	62.1
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	8	66.4	70.4	71.7
		短答式	3	61.3	69.7	70.6
		記述式	3	32.8	37.4	40.2

【小学校　算数】

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		16	67	70	70.2
学習指導要領の領域	A　数と計算	4	58.7	62.7	63.1
	B　図形	3	53.1	56.7	57.9
	C　測定	3	71.3	74.5	74.8
	C　変化と関係	3	73.9	75.7	75.9
	D　データの活用	5	75.4	75.7	76.0
評価の観点	知識・技能	9	71.3	73.6	74.1
	思考・判断・表現	7	62.5	64.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	74.7	75.9	76.0
	短答式	6	71.1	74.8	75.8
	記述式	4	51.1	52.7	53.0

【小学校　理科】

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
全体			17	58	60	63.3
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	44.5	49.0	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	55.2	56.8	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	69.8	72.3	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	57.1	61.0	64.6
評価の観点		知識・技能	6	58.0	59.5	62.5
		思考・判断・表現	11	57.4	60.9	63.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	11	62.1	64.5	66.8
		短答式	3	58.0	61.4	66.2
		記述式	3	40.5	44.3	47.3

【中学校　国語】

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
			阪南市	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		14	59.0	62.0	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	75.9	76.2	79.8
	書くこと	3	49.8	54.1	57.1
	読むこと	4	40.5	45.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	73.3	73.8	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	48.0	51.5	56.0
	話す・聞く能力	3	75.9	76.2	79.8
	書く能力	3	49.8	54.1	57.1
	読む能力	4	40.5	45.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	73.3	73.8	75.1
問題形式	選択式	6	59.0	61.7	63.9
	短答式	4	71.6	73.0	74.4
	記述式	4	48.0	51.5	56.0

【中学校　数学】

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
			阪南市	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		16	51.0	56.0	57.2
学習指導要領の領域	数と式	5	60.0	63.6	64.9
	図形	4	42.4	49.9	51.4
	関数	3	50.2	54.7	56.4
	資料の活用	4	50.6	51.7	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	7	35.9	39.6	41.1
	数学的な技能	3	74.5	76.7	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	58.0	63.6	65.6
問題形式	選択式	2	46.3	50.7	52.4
	短答式	9	64.4	68.8	70.5
	記述式	5	30.1	33.6	35.0

【中学校　理科】

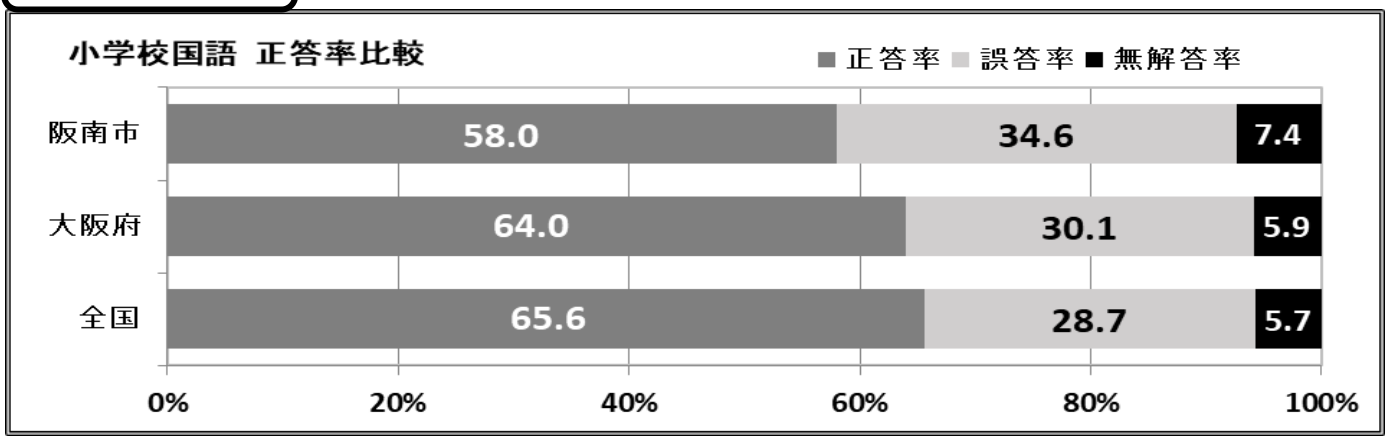
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		21	44	47	49.3
学習指導要領の区分・領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	36.8	38.9	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	44.8	48.7	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	49.1	53.2	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	41.2	42.8	44.3
評価の観点	知識・技能	7	42.6	44.1	46.1
	思考・判断・表現	14	44.3	47.8	51.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	15	45.6	47.6	49.6
	短答式	1	19.1	22.0	24.8
	記述式	5	43.1	48.3	53.5

令和４年度　全国学力・学習状況調査　学力調査結果概要

小学校国語 問題

阪南市の平均正答率は 58.0%、大阪府の平均正答率は 64.0%、全国の平均正答率は 65.6%であった。今年度は異なる立場からの考えを聞き、話し手の考えの中心を捉える問題について成果が出ている。しかし、登場人物の気持ちや相互関係に着目し、物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりする問題については課題がある。登場人物の気持ちの変化がわかる行動や様子、情景等の叙述に触れ、その心情について友だちの意見も参考にして読み深める学習や具体的な叙述に合った短文作り等の活動に取り組むことが、読み取る力の向上につながると考える。

正答率



◇阪南市の平均正答率を大阪府の平均正答率と比べると-6.0 ポイント、全国の平均正答率と比べると-7.6 ポイントであった。

成果や課題の見られた主な問題

△ 1設問三は、「思考力、判断力、表現力等　A　話すこと・聞くこと」の内容からの出題で、話し手が伝えたいことや自分の聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる選択式の問題である。府や国の正答率とほぼ同じ割合であり、「書くこと」「読むこと」と比較すると「話すこと・聞くこと」の対象問題は、府や国の正答率に近い。

▼ 3設問三ア、イ、ウは、「知識・技能」の内容からの出題で、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことができるかどうかをみる短答式の問題である。正答率は、府や国より低いが、そこまで差が大きくはない。しかし、無解答率が高い。思いつかなければ、何も書かないという傾向だと思われる。既習の漢字を用いた短文づくりやペア、グループ等で短文、作文を読み合う活動等を設定し、辞書やタブレット端末等を使用し、漢字・熟語を調べることに慣れ、正しい漢字を習得する基礎的な学習の機会を確保していく。

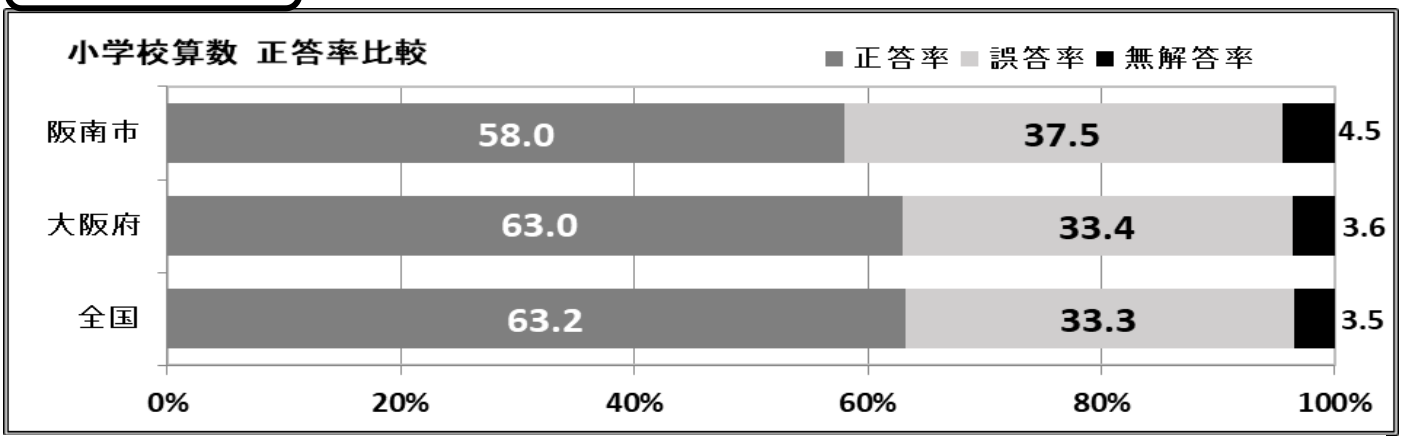
▼ 2設問一（１）、設問二は、「思考力・判断力・表現力等　C　読むこと」の内容から、人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えることや物語を読み、具体的に想像することができるかを問う問題である。登場人物の心情理解や、相互関係、全体像を想像することに課題がある。様々な心情を表す叙述を抜き出し、読み取る学習や違う叙述を当てはめて読むと印象がどう変わるか考える学習等を通して、多様な叙述の読み取り方を学ぶ機会を設定することが大切である。

令和４年度　全国学力・学習状況調査　学力調査結果概要

小学校算数 問題

阪南市の平均正答率は 58.0%、大阪府の平均正答率は 63.0%、全国の平均正答率は 63.2%であった。基本的な計算等、知識・技能を問う問題において比較的正答率が高く、成果が出ている。しかし、依然として問題場面や目的に応じて数量や関係に着目し、数学的に思考・判断・表現する問題においては課題が見られる。特に記述式の問題の無解答率が高く、普段の授業から、日常生活における場面を想定し、筋道を立てて表現する言語活動等を取り入れることが必要だと考える。

正答率



◇阪南市の平均正答率を大阪府の平均正答率と比べると-5.0 ポイント、全国の平均正答率と比べると-5.2 ポイントであった。

成果や課題の見られた主な問題

△3（２）は、「D データの活用」領域、「思考・判断・表現」の観点からの出題で、国や府の正答率に最も近い割合であった。基礎的な計算問題については一定数理解できていると言える。

▼4（２）は、「B 図形」領域、「知識・技能」の観点からの出題で、市の正答率は 73.8%で全問題の中でも高いものであったが、国の正答率を 9.4 ポイント、府の正答率を 7.9 ポイント下回り、大きな差が見られた。「長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く」という問題であった。プログラミング教育のより一層の充実を図ることを含めて、学習を進めていくことが重要である。

▼2（１）は、「C 変化と関係」領域、「知識・技能」の観点からの出題で、正答率が国の正答率を 12.2 ポイント、府の正答率を 10.4 ポイント下回り、全問題で最も差が大きかった。

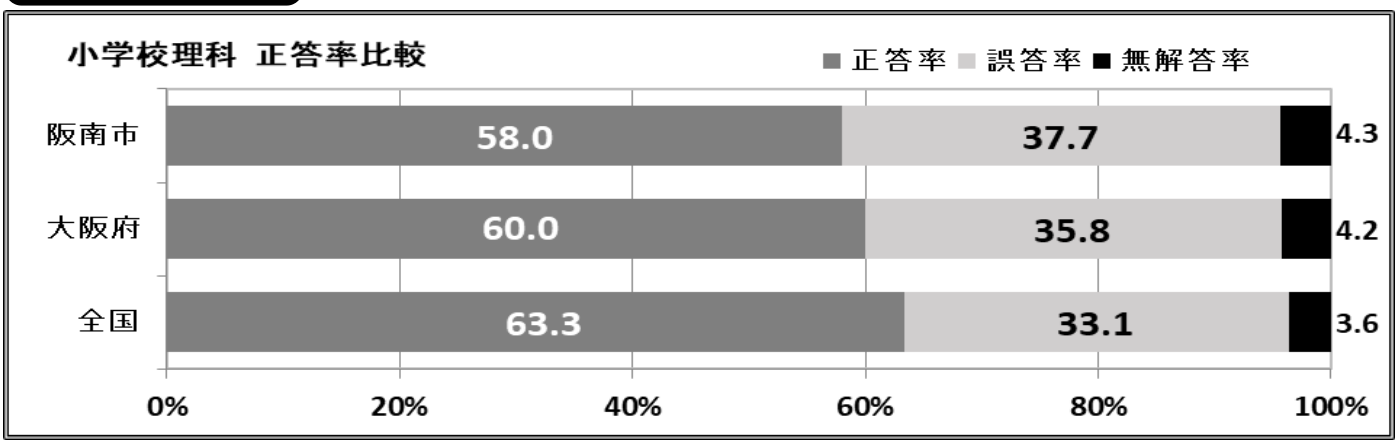
2（３）も同じ領域、観点からの出題で、国も府も正答率は低かったが、市の正答率も 18.1%と全問題中最も低く、無解答率は、国、府よりも 1.6 ポイントも高かった。割合に関する問題で、「りんごジュースに含まれる果汁の割合」について考えるもので、「飲み物の量が 1/2 になると、果汁の割合も 1/2 になる」と答えた割合が多い。これは国や府にも言える傾向であるが、「飲み物の量が 1/2 になると、果汁の割合は２倍になる」と答えた割合が、国と府を 5.6 ポイントも上回っている。割合の学習においては、実生活でも触れる場面をつくり、考える学習を取り入れることも必要である。

令和４年度　全国学力・学習状況調査　学力調査結果概要

小学校理科 問題

阪南市の平均正答率は 58.0%、大阪府の平均正答率は 60.0%全国の平均正答率は 63.3%であった。基本的な知識・技能を問う問題で全国平均以上の正答率を上げるなどの成果が出ている一方、仮説を立て行った実験結果を基に検討・改善し自分の考えを持つ流れを問う問題において課題が見られる。普段の授業から、根拠をもって仮説を立て実験を行い、結果を基に検討し改善しまとめる学習の積み重ねが必要である。

正答率



◇阪南市の平均正答率を大阪府の平均正答率と比べると-2.0 ポイント、全国の平均正答率と比べると-5.3 ポイントであった。

成果や課題の見られた主な問題

△1（２）はＢ区分「生命」を柱とする領域、知識・技能の観点からの問題で、阪南市の正答率が 73.1%あり、府の正答率 71.4%を上回り、全国の正答率 73.1%と同数であった。昆虫の体のつくりについて理解している。また、２（１）及び（２）は、Ａ区分「粒子」を柱とする領域、「知識・技能」の観点からの問題で、（１）については阪南市の正答率が 64.5%で府平均を 0.4%上回り、（２）については阪南市の正答率が 72.4%で国平均を 2.4%上回った。実験を丁寧に行うことで、実験器具の名前及び扱い方を正しく身に付けており、体験した学習は定着していることがわかる。

▼3（２）はＡ区分「エネルギー」を柱とする領域、知識・技能の観点からの問題で、阪南市の正答率が 63.6%であり、府平均より 7.9%、全国平均より 10.8%下回った。実験の結果から問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ問題である。日光を反射させて重ねたときの鏡の枚数という条件を変更することで生じる結果の変化について比較しながら調べる活動であり、行った条件制御とそれに伴う結果の変化を正確にまとめる学習を進めていくことが重要である。

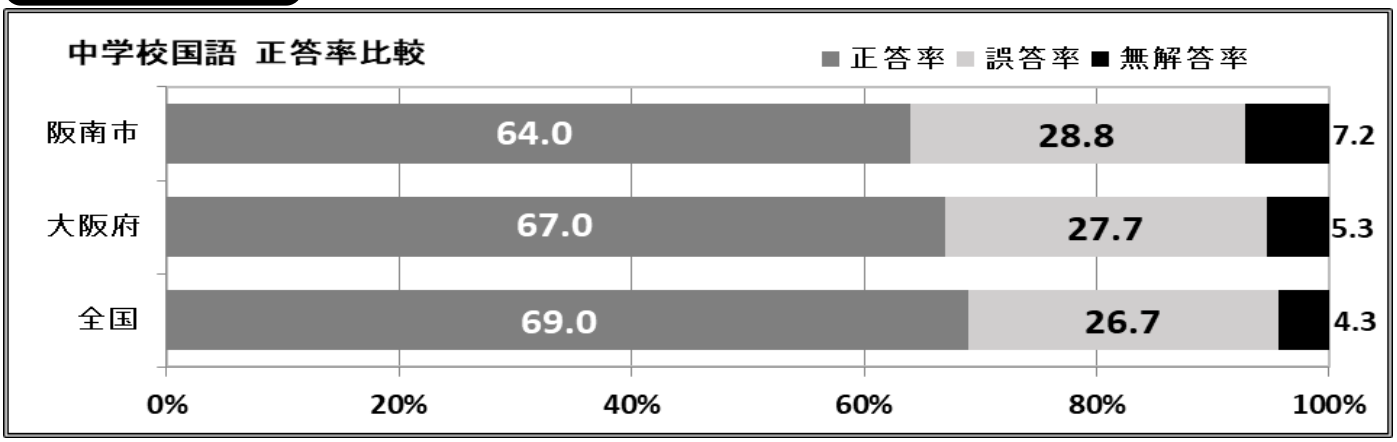
▼3（３）はＡ区分「エネルギー」を柱とする領域、思考・判断・表現の観点からの問題で、阪南市の正答率が 59.4%であり、府平均より 6.5%、全国平均より 9.5%下回った。鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く問題である。太陽が動く中、継続して日光を当て続けるために「鏡の向き」を対象に、向きや位置について変更点を示すこと、或いは「かんの位置」を対象の位置について変更点を示す、といった動かす対象と動かし方の両方について記述しなければならない問題である。実験方法を見直すには、見直す理由を理解したうえで、何をどうすれば改善されるのかについて思考し、判断し、表現する短答式の解答を行う学習を積み重ねることが重要である。

令和４年度　全国学力・学習状況調査　学力調査結果概要

中学校国語 問題

阪南市の平均正答率は 64.0%、全国の平均正答率は 69.0%、大阪府の平均正答率は 67.0%であった。今年度は表現の技法について理解しているかをみる問題と事象や行為、心情を表す語句について理解する問題において成果が見られた。しかし、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかを見る問題や、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する問題において、課題が見られた。更に、これらの問題は無解答率も高く、普段の授業から同様の問題を解く機会を持つことで苦手意識等の払拭を図っていくことも必要である。

正答率



◇阪南市の平均正答率を大阪府の平均正答率と比べると-3.0 ポイント、全国の平均正答率と比べると-5.0 ポイントであった。

成果や課題の見られた主な問題

△3 設問一は、『言葉の特徴や使い方に関する事項』からの出題であり、表現の技法について理解しているかをみる問題である。阪南市の正答率は 53.5%で、全国を 1.0 ポイント、府を 0.3 ポイント上回っている。

△3 設問二は、『言葉の特徴の使い方に関する事項』からの出題であり、事象や行為、心情を表す語句について理解しているかを見る問題である。阪南市の正答率は 86.3%で、全国を 2.3 ポイント、府を 2.0 ポイント上回っている。

▼1 設問三は、『言葉の特徴や使い方に関する事項』、及び『話すこと・聞くこと』からの出題であり、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかを見る問題である。阪南市の正答率は 35.3%で、全国を 16.5 ポイント、府を 10.7 ポイント下回っている。発表原稿を作成する際に、自らの文章を客観的な視点で見ることができるような活動を取り入れることが重要である。

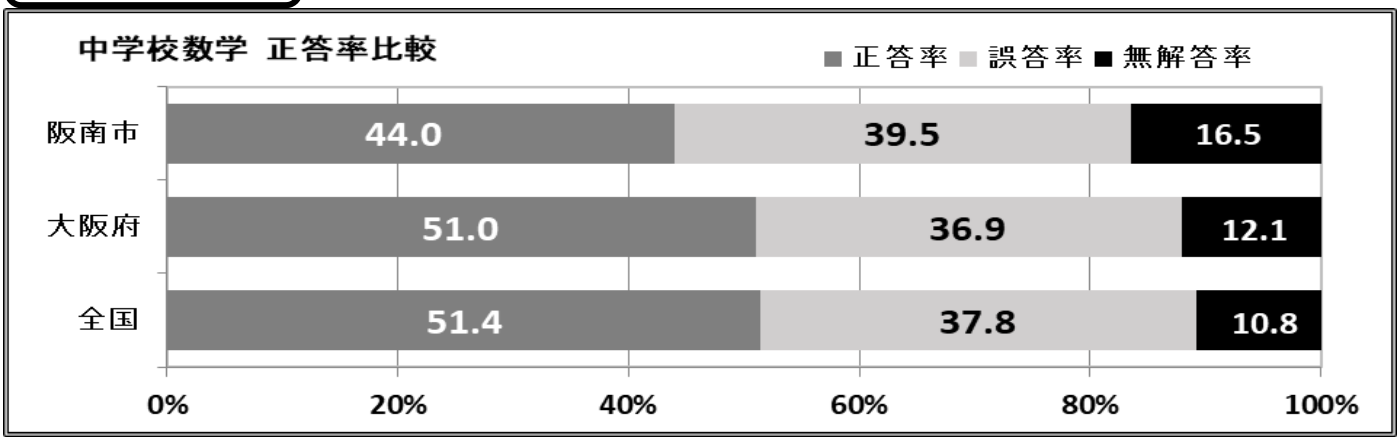
▼3 設問四は、『読むこと』からの出題であり、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する問題である。阪南市の正答率は 65.0%で、全国を 8.8 ポイント、府を 5.8 ポイント下回っている。長文を読み解く中で、それぞれの場面を切り分けることや、それぞれの場面でどのような話が展開されているのか捉えながら文章を読む力が重要となる。

令和４年度　全国学力・学習状況調査　学力調査結果概要

中学校数学 問題

阪南市の平均正答率は 44.0%、大阪府の平均正答率は 51.0%、全国の平均正答率は 51.4%であった。今年度はデータと活用する問題については、無解答率も低く、成果が見られた。しかし、数に関する性質を説明する問題や証明において性質が成り立つ理由を数学的に説明する問題において課題が見られた。また、単純に知識や技能を問う問題ではなく、思考し判断し表現する観点の記述式の問題において依然として無解答率が高い。日々の授業で自ら考え、自分の言葉で順序だてて説明することが重要である。

正答率



◇阪南市の平均正答率を大阪府の平均正答率と比べると、-7.0 ポイント、全国の平均正答率と比べると-7.4 ポイントであった。

成果や課題の見られた主な問題

△2「数と式」の領域からの問題で、比較的正答率の高くなりにくい連立方程式の問題では、それ以外の問題よりも、府や国の正答率との差は大きく見られなかった。代入法で解くことができる計算のため、比較的困難な計算ではないが、無解答率も低く、基礎的な計算で解答を導くことができる問題ついては、意欲的に解答していると分析できる。

▼1「数と式」の領域からの問題で、素因数分解する問題であるが、正答率は大阪府より-11.6 ポイント、国より-10.9 ポイントと、大きな差が見られる。中学校１年時に学習する「素因数分解」という言葉を理解できておらず、平方根の学習で活用するが、それまでに学習する四則計算とは少し違う計算式を使うことに慣れていないと分析される。日々の授業にて定着するまでの反復練習が重要である。

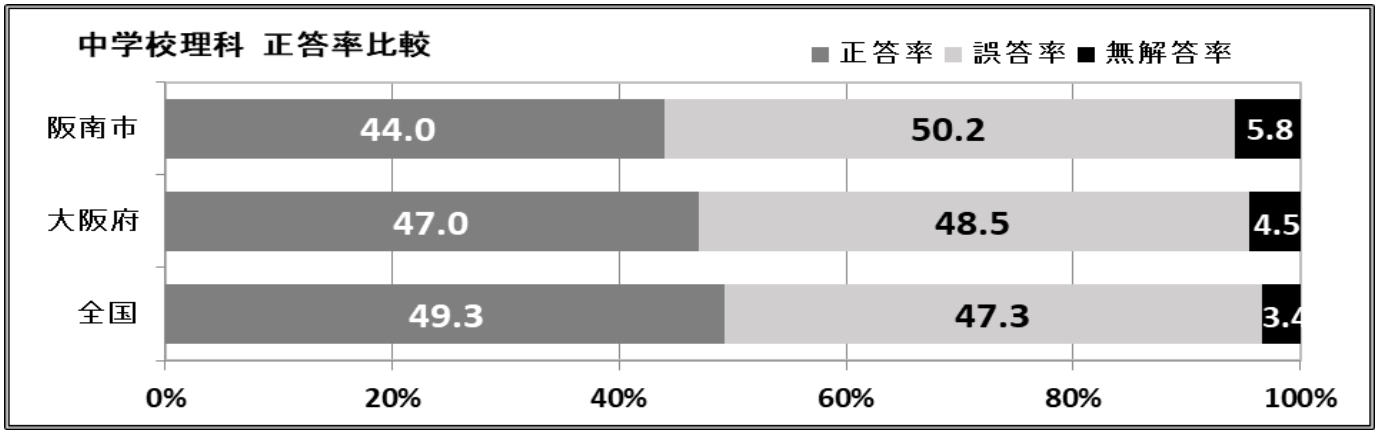
▼9（１）「図形」の領域からの問題で、合同条件を答える問題であるが、正答率は大阪府より 10.9 ポイント、国より 11.5 ポイントと、大きな差がみられる。証明の中で、図形の性質は、すでに記載されているものを、図に落とし込むことで適切な合同条件を解答していく問題である。筋道を立てて図形の性質を理解することに課題があり、結論が成り立つための前提を表現することを日々の授業にて繰り返し取り組むことが必要である。

令和４年度　全国学力・学習状況調査　学力調査結果概要

中学校理科 問題

阪南市の平均正答率は 44.0%、大阪府の平均正答率は 47.0%、全国の平均正答率は 49.3%であった。知識の概念的な理解の問題において、事実的な知識を既有の知識と関連付づけたり活用したりする部分に成果が見られた。しかし、実験や観察に基づいて科学的に思考・判断・表現する問題において課題が見られた。また、依然として記述問題における無解答率が高い。日々の授業で自ら考え、それを文章で表現するような活動を行うことが重要である。

正答率



◇阪南市の平均正答率を大阪府の平均正答率と比べると、-3.0 ポイント、全国の平均正答率と比べると-5.3 ポイントであった。

成果や課題の見られた主な問題

△1（１）は「電流とその利用」からの出題で、日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象について問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題である。阪南市の正答率は 46.4%で、大阪府を 5.2 ポイント、全国を 2.2 ポイント上回っている。これは、自分たちの身の回りで起こっている現象のしくみを授業で学習した静電気に関する知識と関連付けて活用できているということである。

▼5（３）は「力の働き」からの出題で、ばねを押すとき、加える力の大きさとばねが縮む長さの関係について科学的に探究する学習場面において、考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる問題である。阪南市の正答率は 28.8%で、大阪府を 8.7 ポイント、全国を 14.5 ポイントと大きく下回った。考察の妥当性を高めるために、実験の条件をどのように設定すればよいかを生徒が指摘できるよう、条件を制御して観察・実験を計画することが大切である。また、阪南市の無解答率は、45.9%で、大阪府を 9.6 ポイント、全国を 16.5 ポイント上回っている。

▼8（１）は「動物の体の作りと働き」からの出題で、アリの行列の作り方を探究する場面において、実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる問題である。阪南市の正答率は 41.9%で、大阪府を 7.1 ポイント、全国を 13.3 ポイントと大きく下回った。

（４）学力状況調査の結果から

今回の調査結果を分析すると、長い文章を読み解く問題や、２つの資料を行き来して考える問題において、誤答や無解答が多く見られ、原因として語彙力に課題があることが原因として考えられる。

また、学習した内容を個別に理解しているが、それぞれの関係性やつながりまで気づくことができていないように見える。一問一答形式等で問われると答えることができるが、グラフや図などの資料等の中から解答に必要な部分を見つけ、順序だてて考えることが苦手である傾向が見られる。

更に、記述式の問題の正答率について依然として課題が見られる。選択式、短答式の問題に比べて、記述式の問題の無解答率が高く、正答率が低い傾向にある。全国や府も同等の傾向であるが、問題の文章を読み、それに対して解答を記述する途中で問題を解くことをやめてしまったのではないかとも考えられる。

小学校及び中学校の調査結果概要については、本冊子の P.９～P.１４に掲載している。

（５）今後の課題の解決に向けて

【語彙の習得に向けて】

文章を読み解くためにも、語彙の習得は必須である。新しく学習した言葉については、ただ意味を調べるだけでなく、実際に文章で使うという機会を設けることで定着を図ることが必要である。また、その確認は一度のみならず、作文や感想文を書く際にも、言葉を意味通りに活用できているのか、確認していくことが重要である。

【物事を関連付けて考える力の習得に向けて】

物事をきれぎれに捉えるのではなく、関係性を踏まえながら全体的に考える練習を繰り返すことが必要である。

例えば、理科の学習において、観察・実験を行う前に、仮説を必ず立てるようにする。結果をイメージさせ、そのうえで、何故そうなると思うか理由も説明する。そして、実際の結果と仮説を比較した内容をまとめる。思った結果が出なかった場合、何故そうなったのかということを振り返り、原理を理解し説明する機会を持つことにより、既習事項を活用して考えるということを習慣づけることができる。

また、他にも様々な資料の中から、今知りたい答えを導き出すにはどの資料を活用すればよいかを繰り返し考える機会を持つことにより、道筋を立てて考え

る習慣をつけていく。

【記述式問題の正答率の向上に向けて】

自分の考えを表現できるように、以下を重点的に指導することが必要である。

まずは、読む力をつけること。そのためには、『読むこと』を指導する際に、読んだ内容をどのように活用するか、どこに着目して読むべきかを常に意識させること、文章を目的に応じて読むという意識を持たせることが重要である。

次に、資料などを活用する能力を育成すること。意見発表やスピーチをする際に、材料を集めるために、引用箇所などを考え、自分の意見を持ちながら文章や資料を読むことが重要である。

最後に、表現する場を設定すること。自分自身の考えを明確に文章にして、班活動などの場で、互いの感想や意見を伝え合う場を設定することが必要である。

【市として重点的に指導していくこと】

阪南市教育委員会事務局では、毎年子どもたちの学校及び学習環境における方針として『阪南市学校園教育基本方針』を立てており、学力については、以下の通り示している。

「確かな学力」と「生きる力」の育成とは、

①生きて働く「知識・技能」の習得

②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成

③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養　のこと

＊SDGs に関する学習や活動を通じて、新しい時代を切り開き、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力の育成

＊幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領の趣旨の実現に向けた教育活動の推進

＊自ら身近な課題の解決に取り組む、海洋リテラシー教育をはじめとする環境教育の推進

○言語活動の充実と「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした保育・授業改革を推進し、学力向上につなげる。

○学習意欲の向上を図るとともに、生きて働く知識・技能を習得させ、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育成する。

○海洋教育などの体験活動を通して「課題解決学習」や「探求型協働学習」を進める中、主体的に課題を発見し解決しようとする態度を身に付け、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう人間性」を涵養する。

○地域や関係団体と連携を図り、「海洋教育副読本」などを活用した環境教育に取り組むことで、自分たちがクラス社会と地域に興味を持ち、その自然環境を進んで保全しようとする態度を育成する。

〇家庭における学習習慣の定着を図り、自ら進んで学ぶ態度を育成する。
〇学校図書館を有効活用するとともに、市立図書館と連携して、読書活動・学習活動の充実を図る。
〇「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意し、学びの連続性を踏まえた教育過程を編成する。

【令和４年阪南市学校園教育基本方針より抜粋】

これを踏まえ、以下について各校に重点的に指導していく。

【生きて働く知識・技能の習得】
〇各学年に応じた知識・技能を習得するための取組を行う。中学校区でその取組を共有するとともに、学期ごとにその取組を見直す機会をもつことにより、子どもたちの知識・技能を育成していく。

【思考力・判断力・表現力の育成と言語活動の充実】
〇思考力・判断力・表現力の育成のため、授業の中で、子どもたちが課題意識を持つことはもちろんとして、資料から得た情報を関連付けながら解釈、分析したり、資料に基づいて自分の言葉で説明や論述したりすることができる学習活動を展開する。
〇言語活動においては、ただ班活動やペア活動などでお互いの意見を述べ合うだけでなく、自らの意見を発表する前には、短い文章で自分の言いたいことをまとめるなどの活動を取り入れたり、相手の意見と自分の意見を比較して違いを見つけるなどの活動を取り入れたりする。

【家庭における学習習慣の定着】
〇基礎・基本の定着を図る家庭学習はもちろんであるが、予習・復習的なものや、子どもたちが自らの課題を見つけ自主的に学習できるものなどを家庭学習として設定する。
また、学習用タブレット端末の積極的な持ち帰りにより、調べ学習の実施や動画の作成や視聴など、家庭学習の幅は大きく広がる。子どもたちの課題と正対した家庭学習を設定することで、自ら進んで学ぶ態度を育成する。

３．　児童・生徒質問紙調査結果の概要について

全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙調査より、「生活の様子」「自分について」「家庭での学習」「地域や社会との関わり」の４つの観点について、１３項目の調査結果概要を取りあげる。

・「生活の様子」に関する質問項目

１．朝食を毎日食べていますか
２．毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
３．毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

・「自分について」に関する質問項目

４．自分には、よいところがあると思いますか
５．将来の夢や目標を持っていますか
６．自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか
７．人の役に立つ人間になりたいと思いますか

・「家庭での学習」に関する質問項目

８．家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）
９．学習の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
１０．土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

・「地域や社会との関わり」に関する質問項目

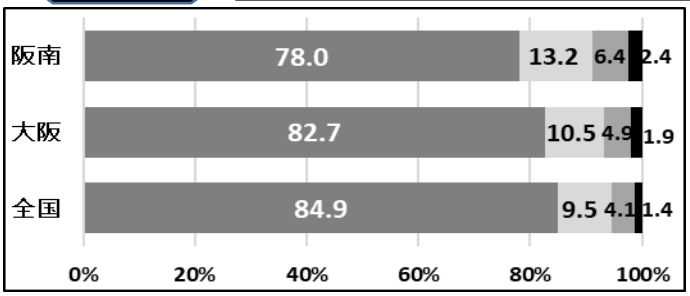
１１．学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）
１２．新聞を読んでいますか
１３．今住んでいる地域の行事に参加していますか

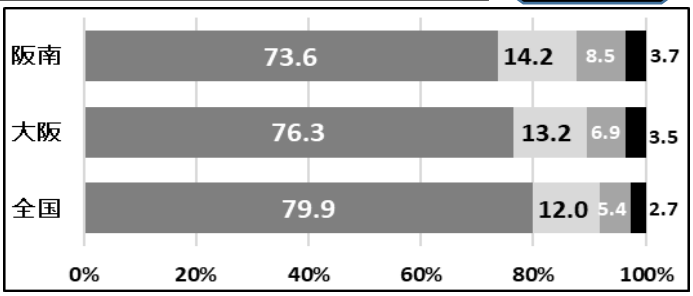
令和４年度全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙結果より

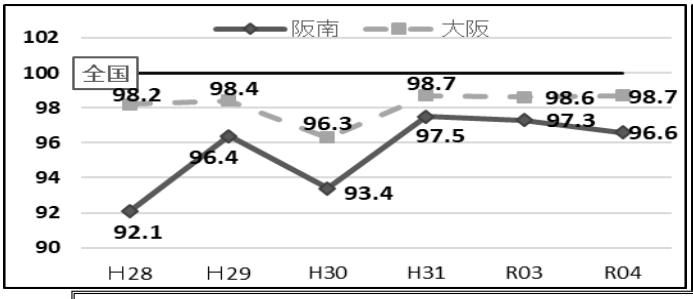
１　朝ごはん

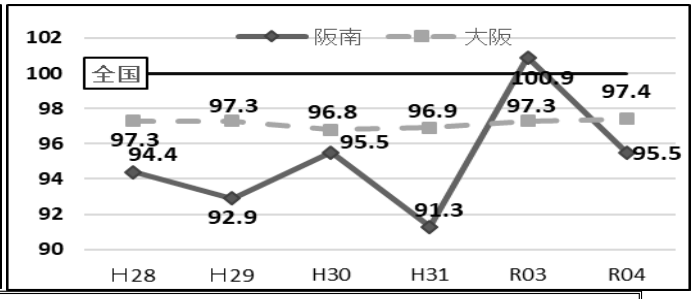
Ｑ：朝食を毎日食べていますか

小学校　■している ■どちらかといえばしている ■あまりしていない ■全くしていない ■その他・無回答　中学校









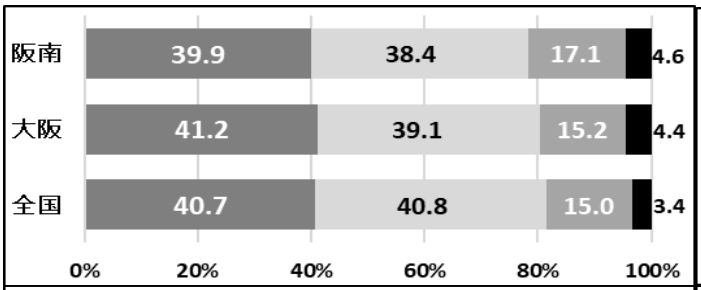
「している＋どちらかといえばしている」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

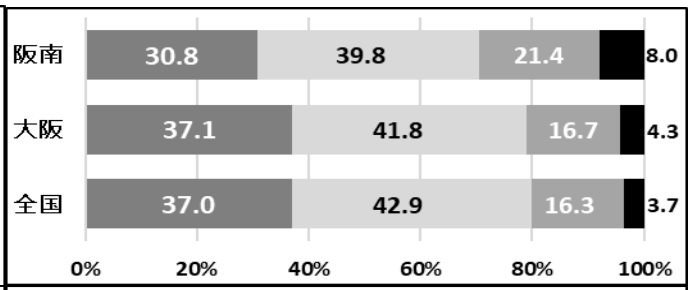
「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小・中学校ともに令和３年度を下回っている。

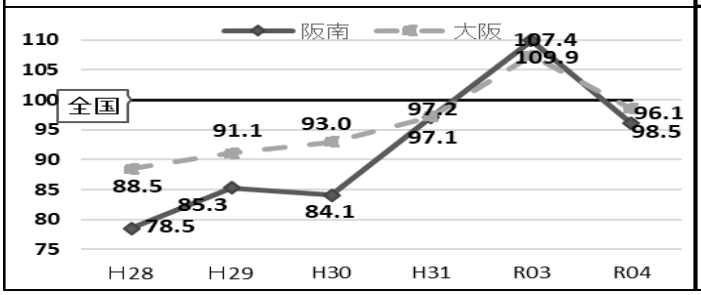
２　寝る時刻

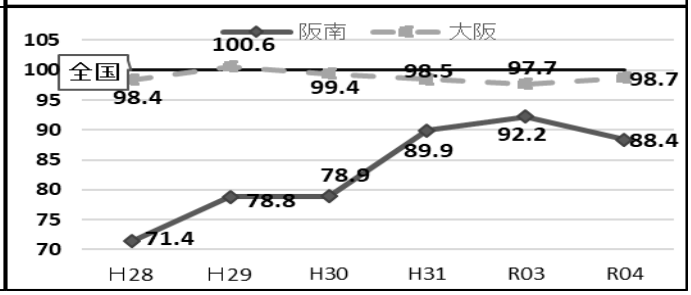
Ｑ：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

小学校　■している ■どちらかといえばしている ■あまりしていない ■全くしていない ■その他・無回答　中学校









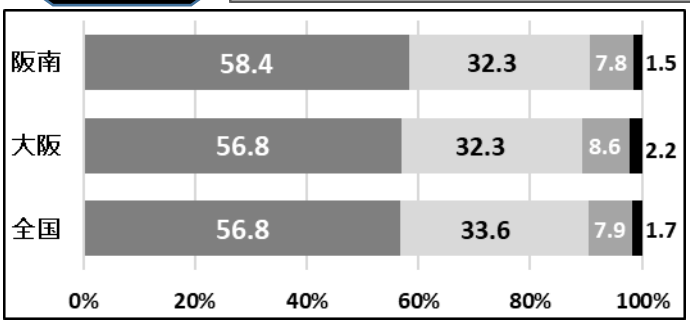
「している＋どちらかといえばしている」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

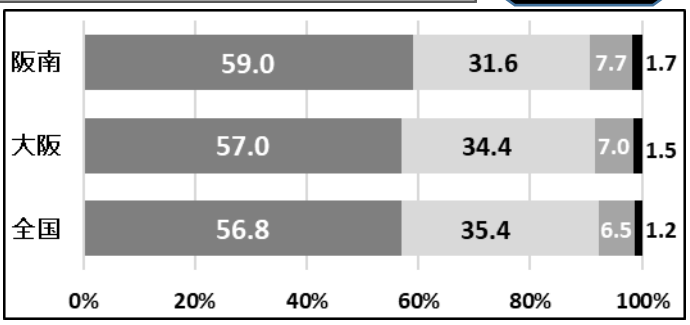
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小・中学校ともに令和３年度を下回っている。

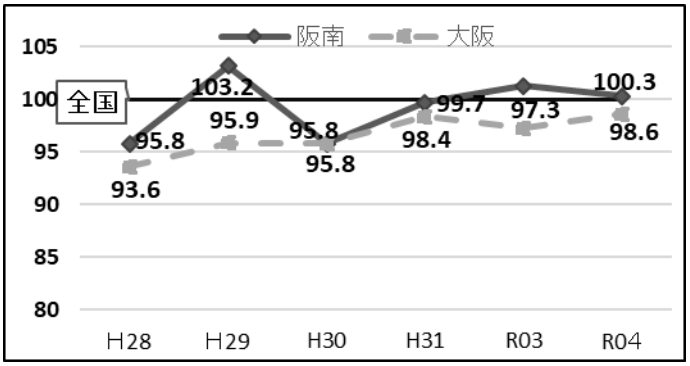
３　起きる時刻

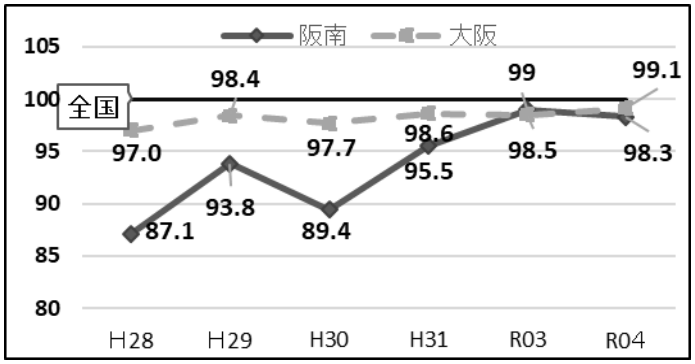
Ｑ：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

小学校　■している　■どちらかといえばしている　■あまりしていない　■全くしていない　■その他・無回答　中学校









「している＋どちらかといえばしている」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

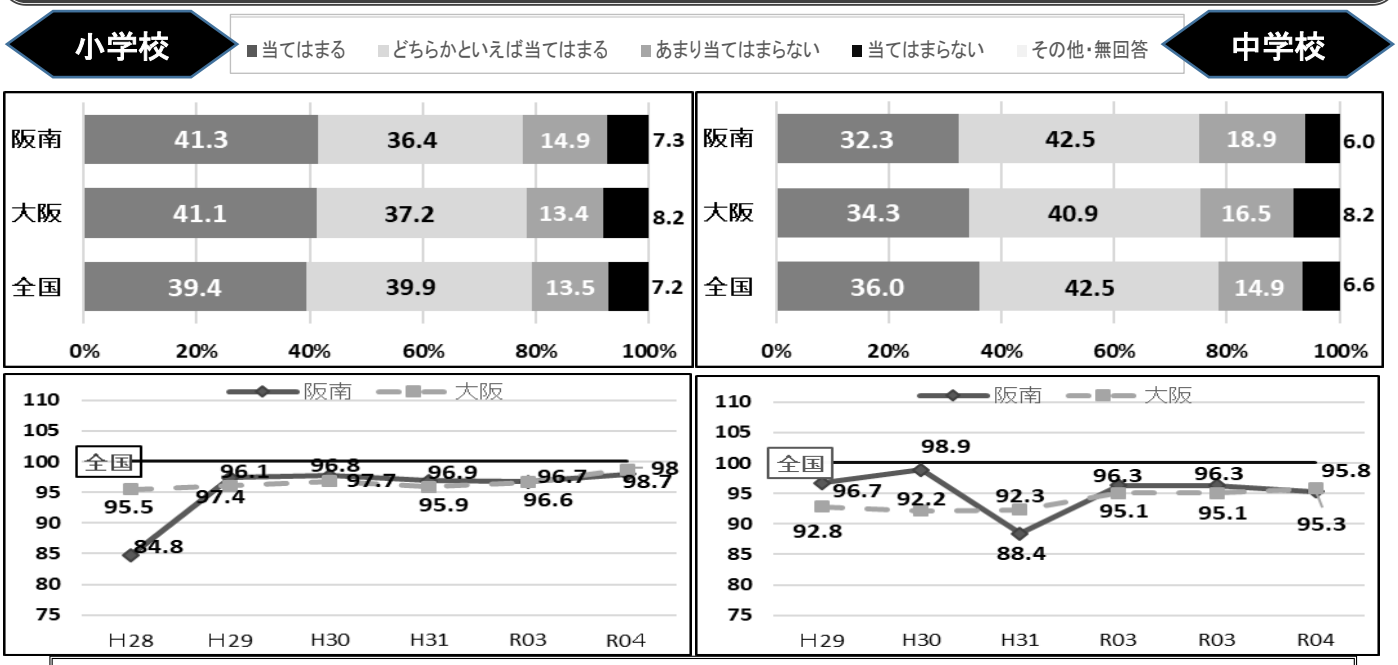
「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小・中学校ともに令和３年度を下回っている。

令和４年度全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙結果より

４　自分にはよいところがある

Ｑ：自分には、よいところがあると思いますか

小学校　　中学校



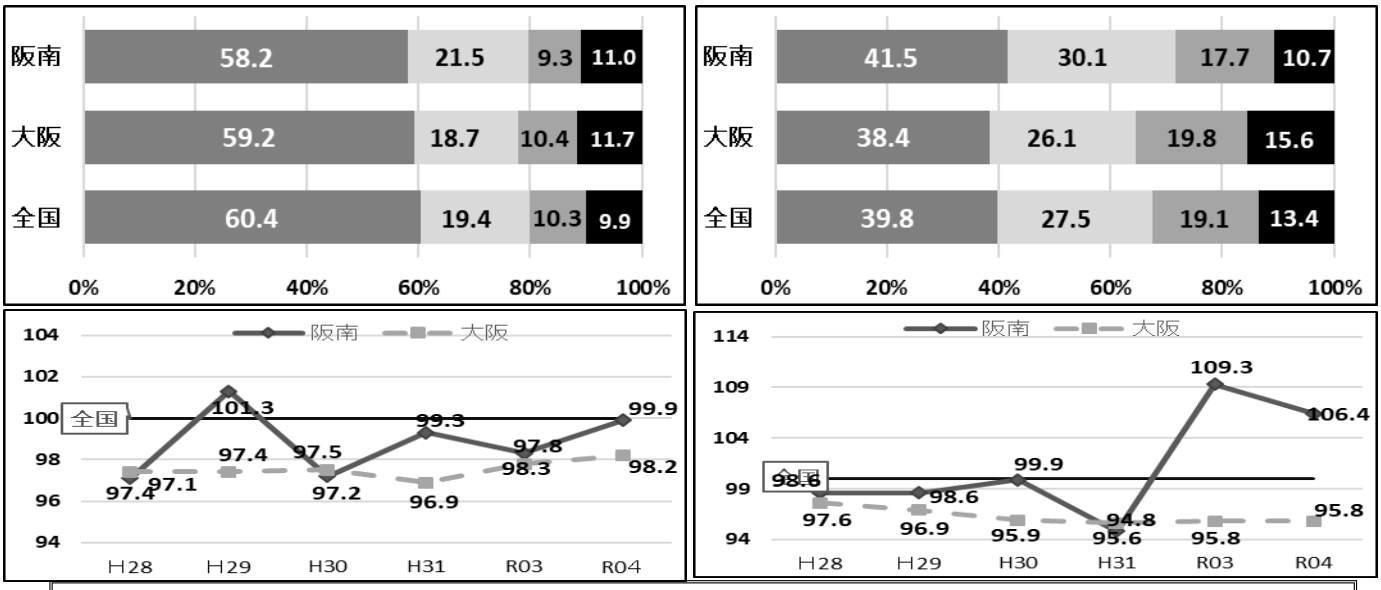
「当てはまる＋どちらかといえば当てはまる」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小学校では令和３年度を上回っており、中学校では下回っている。

５　　将来の夢や目標

Ｑ：将来の夢や目標を持っていますか

小学校　　中学校



「当てはまる＋どちらかといえば当てはまる」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

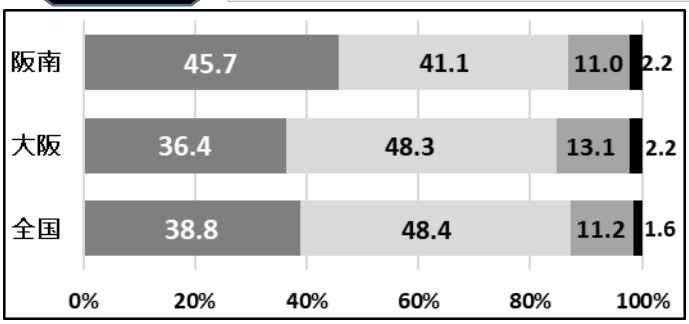
「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小学校では平成 31 年度を下回ったが、中学校では大きく上回る形となった。

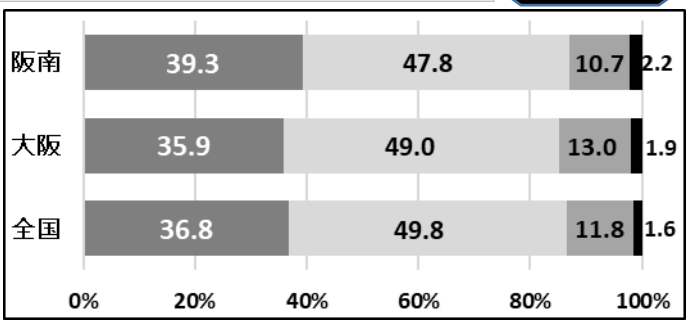
令和４年度全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙結果より

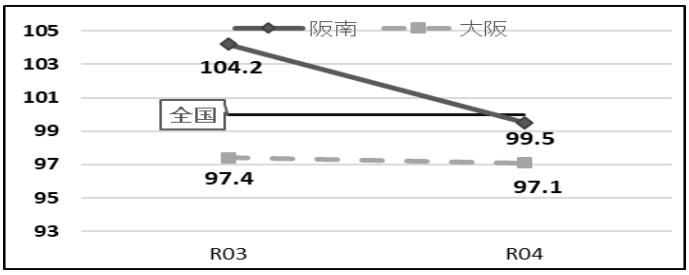
６　最後までやり遂げる

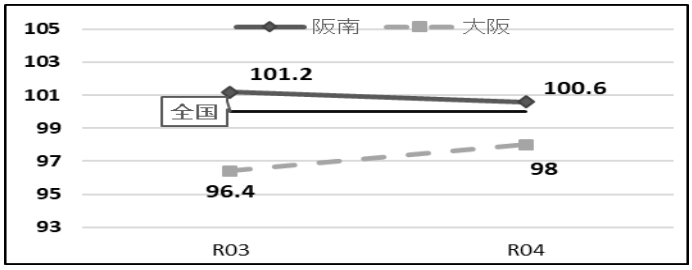
Ｑ：自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか

小学校　■当てはまる　■どちらかといえば当てはまる　■あまり当てはまらない　■当てはまらない　■その他・無回答　中学校









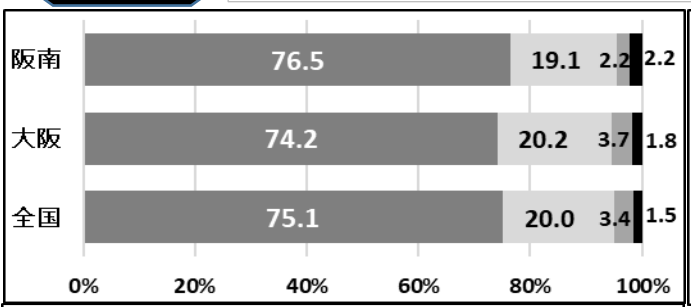
「当てはまる＋どちらかといえば当てはまる」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

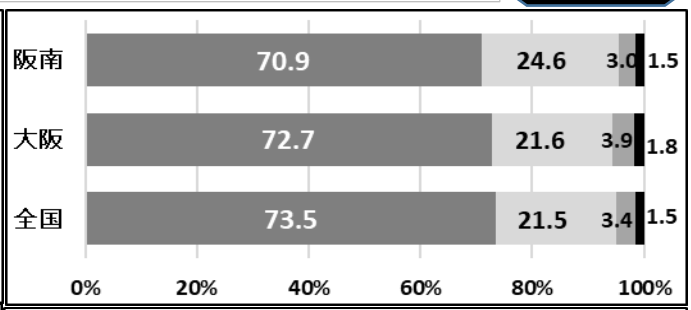
「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小・中学校ともに令和３年度を下回る結果となった。

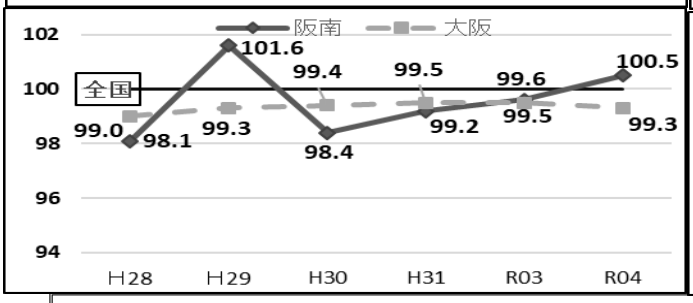
７　人の役に立つ

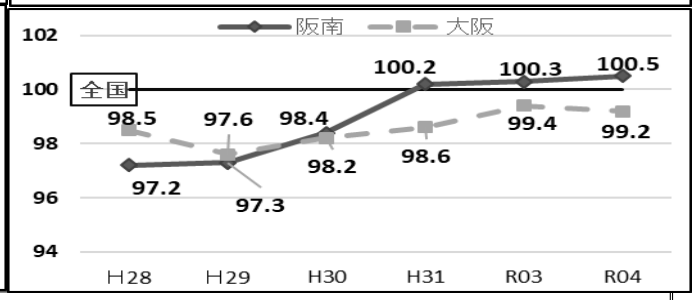
Ｑ：人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学校　■当てはまる　■どちらかといえば当てはまる　■あまり当てはまらない　■当てはまらない　■その他・無回答　中学校









「当てはまる＋どちらかといえば当てはまる」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

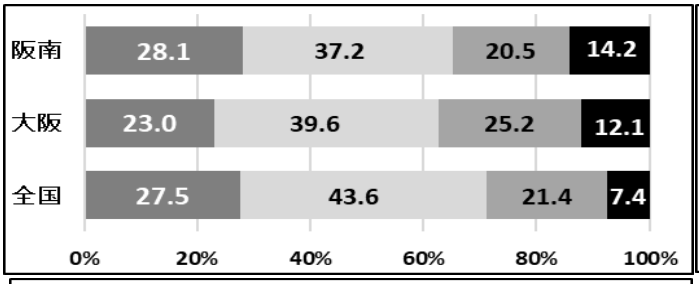
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小・中学校ともに令和３年度を上回っており、小・中学校ともに全国平均を超える結果となった。

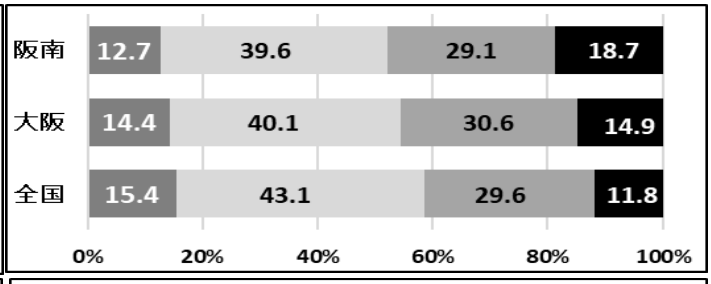
令和４年度全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙結果より

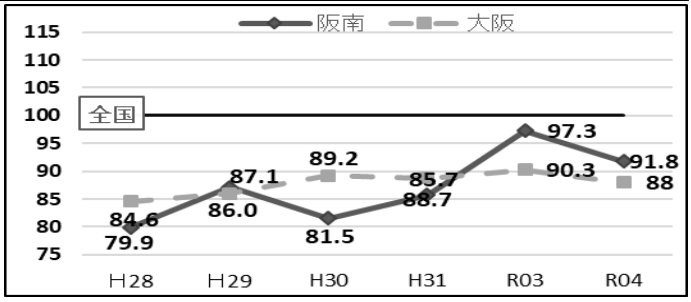
８　家庭での自律的な学習

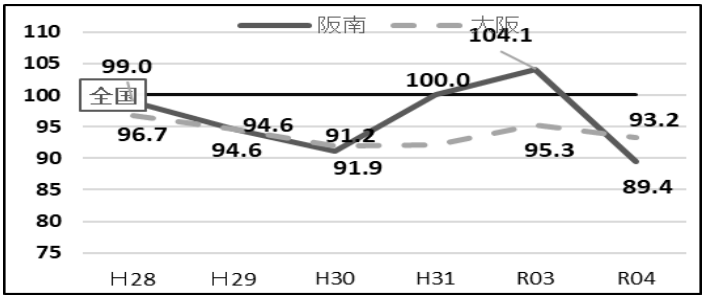
Ｑ：家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

小学校　■している　■どちらかといえばしている　■あまりしていない　■全くしていない　■その他・無回答　中学校









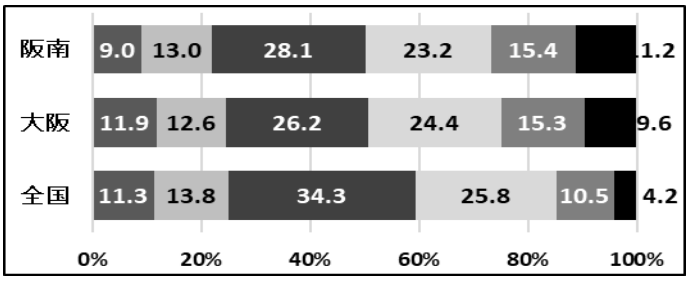
「している＋どちらかといえばしている」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

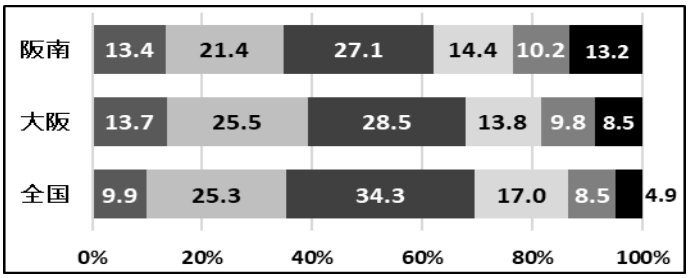
「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小・中学校ともに令和３年度を下回っている。

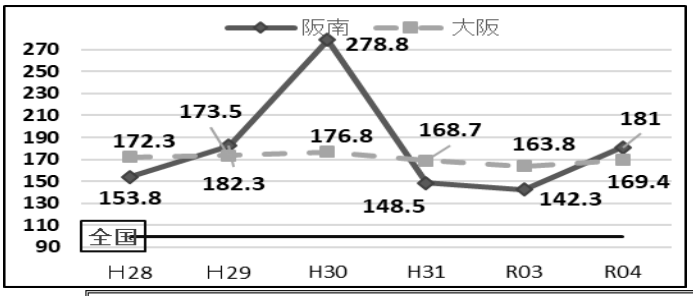
９　学校以外の勉強時間

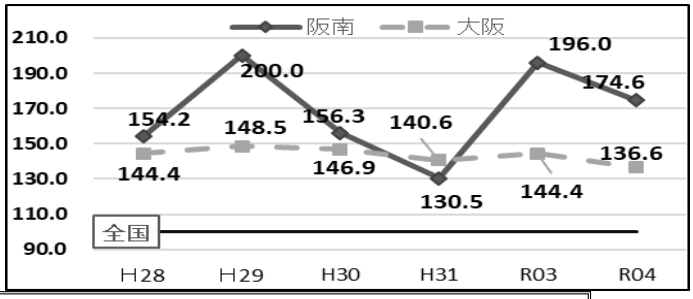
Ｑ：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校　■3時間以上　■2～3時間　■1～2時間　■30分～1時間　■30分より少ない　■全くしない　中学校







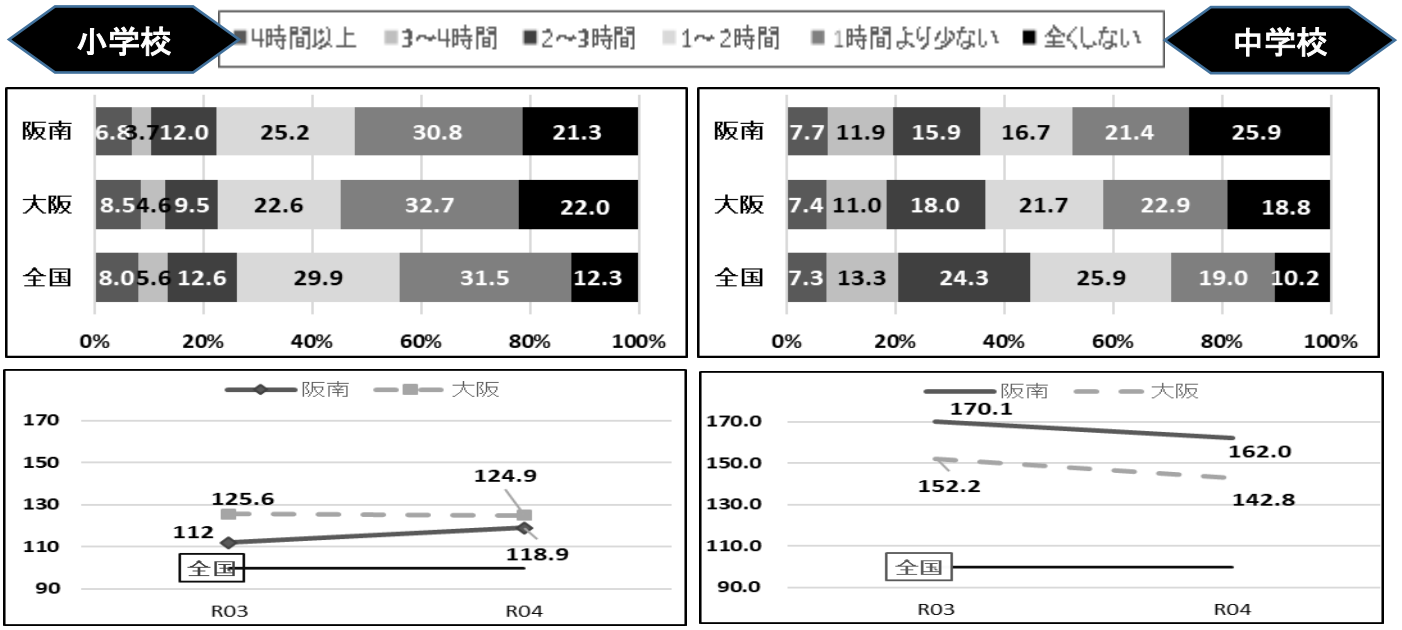


「30 分より少ない＋全くしない」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

「学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して、「３０分より少ない＋全くしない」と回答をした児童・生徒の割合は、令和３年度と比べ、小学校においては、増加しており、中学校においては、減少している。

１０　土曜・日曜の勉強時間

Ｑ：土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



「１時間より少ない＋全くしない」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

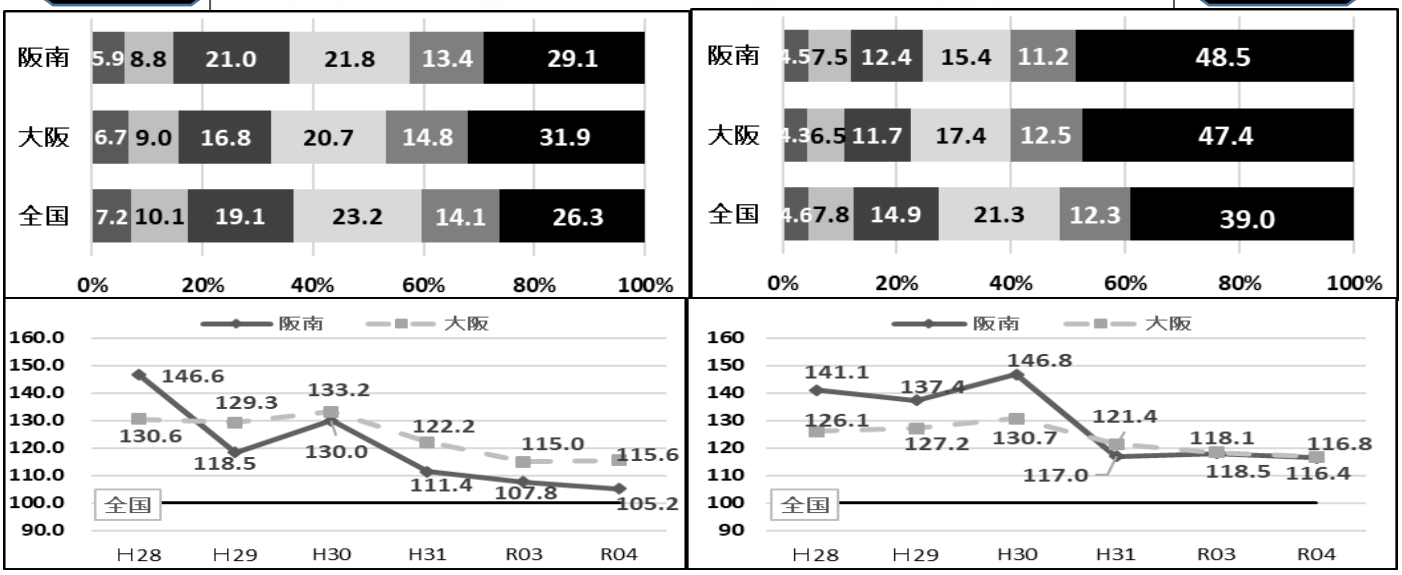
「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して、「１時間より少ない＋全くしない」と回答をした児童・生徒の割合は、令和３年度と比べると小学校においては増加している。中学校においては、減少している。

令和４年度全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙結果より

１１　不読率

Ｑ：学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）

小学校　　中学校



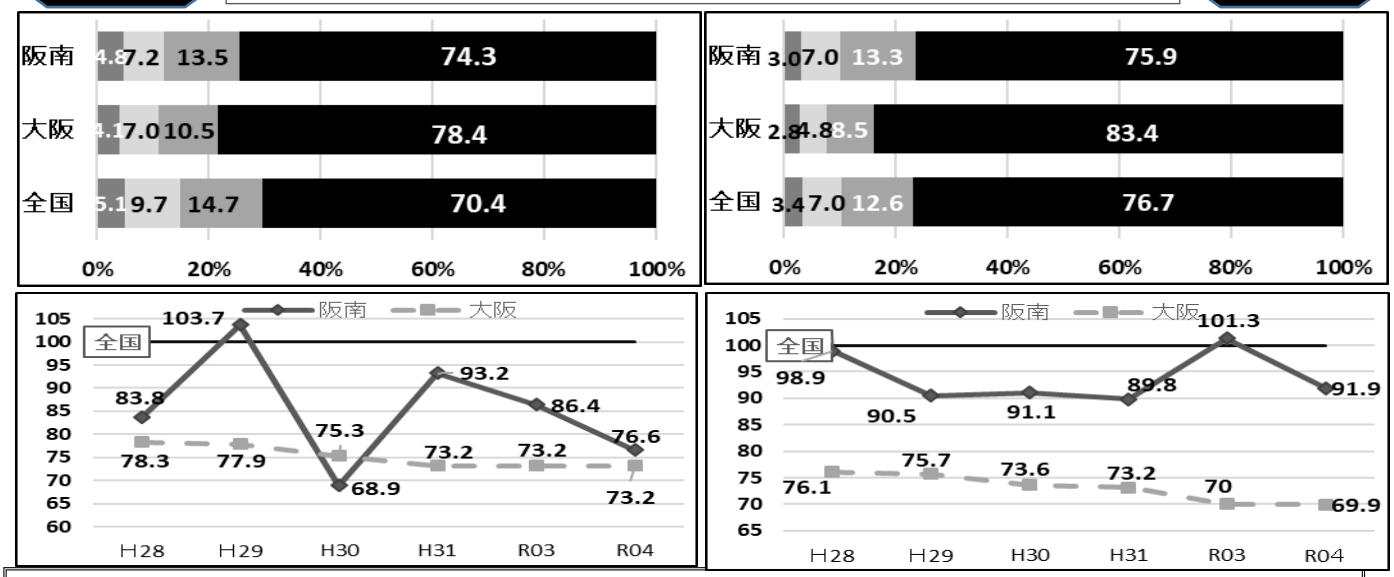
「10 分以内＋全くしない」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

「学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に対して、「10 分以内＋全くしない」と回答した児童・生徒の割合は、令和３年度と比べると小・中学校ともに減少している。

１２　新聞

Ｑ：新聞を読んでいますか

小学校　　中学校

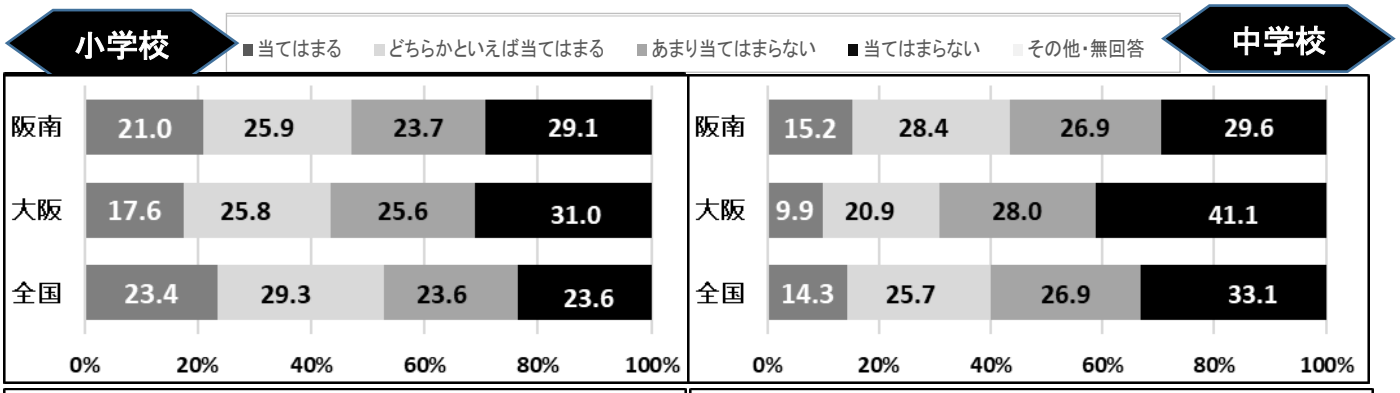


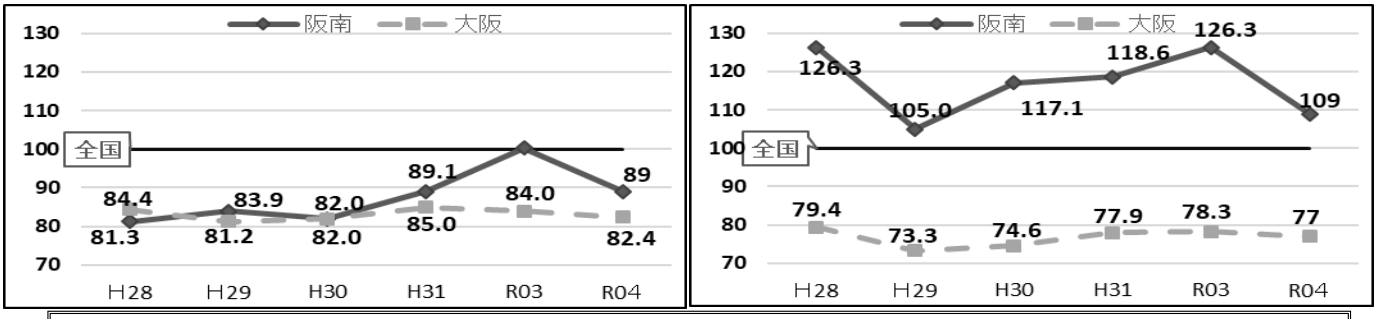
「ほぼ毎日＋週に１～３回＋月に１～３回、新聞を読んでいる」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比

「新聞を読んでいますか」の質問に対して、「ほぼ毎日＋週に１～３回＋月に１～３回、新聞を読んでいる」と回答した児童・生徒の割合は、小・中学校ともに令和３年度を下回った。

１３　地域の行事への参加

Ｑ：今住んでいる地域の行事に参加していますか





「当てはまる＋どちらかといえば当てはまる」の回答率について、全国を 100%とした時の大阪府及び阪南市の経年比較

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小・中学校ともに令和３年度を下回っている。

児童・生徒質問紙調査結果の分析について

児童・生徒質問紙調査結果について、近年、特に成果の見えてきた項目について取りあげる。

【５　将来の夢や目標】について

はじめにｐ.２１の「５ 将来の夢や目標」については、中学校においては、令和３年度より下降しているが、小学校、中学校ともに大阪府よりも高い数値となっている。さらに、「同一集団」を比較した場合、つまり、平成３１年度の小学６年生が、令和４年度の中学３年生であるので、この同じ子どもたちがどう変化したのかを見ると、平成３１年度の小学生の将来の夢や目標についての質問に対する肯定的な回答は、対全国比、９９．３％であったが、同じ子どもたちが令和４年度に中学３年生になった時には、対全国比１０６．４％まで向上していることがわかる。

【7 人の役に立つ】について

次に、ｐ.２２の「７　人の役に立つ」について、この項目では、人の役に立つ人間になりたいと思いますかという質問について、「当てはまる」と答えた子どもと、「どちらかといえば当てはまる」と答えた子どもの割合を合わせて比較しているが、小中学校ともに令和３年度よりも増加していることがわかる。さらに、先ほどの同一集団で見ても、同じ子どもたちが、平成３１年度では、対全国比９９．２％から、令和４年度では１００．５％と向上していることがわかる。

【11 不読率】について

続いて、ｐ.２３の「１１　不読率」について、普段の１日当たりの読書の時間について質問した項目であるが、こちらは読書の時間が「１０分以内」もしくは、「全くしない」という回答を、全国、大阪府と比較したものである。令和３年度よりもわずかではあるが、全国に近づいていることが分かる。

以上、特に向上が見られた３項目の質問について見てきたが、その他の質問についても、同一集団比較という視点から見ると、取りあげている１３項目のうち、４項目で向上が見られた。しかし、生活の様子をみる３つの全ての質問で、経年比較から見ても、同一集団の比較から見ても下降傾向にあることが分かる。生活習慣の改善について、市教委及び学校・家庭と協力して、改善をめざしていきたい。